

平成 12 年国勢調査 3 大都市圏の人口

～昭和 25 年からの半世紀の推移～

はじめに

本稿は、「平成 12 年国勢調査 全国都道府県市区町村別人口（要計表による人口）」（総務省統計局）の結果を基に本市が独自に集計・分析したものである。使用した数値は「速報値」であり、後日総務省統計局が「確定値」により取りまとめ公表する『大都市圏の人口』と数値が異なる場合があるので留意されたい。（ただし平成 7 年までの数値は確定値による。）

ここでの 3 大都市圏とは「名古屋大都市圏」、「東京大都市圏」及び「大阪大都市圏」をいい、それぞれ現在の名古屋市役所、東京都庁、大阪市役所を中心点に、そこから 10km までは 5km ごと、10km 以上は 10km ごとに 70km までの距離帯（キロ圏）を設定し、その圏域に含まれる市区町村を固定させ、各大都市圏として定義・集計している。さらに各距離帯をそれぞれ 8 方位別に区分し、そのセクタごとにその圏域

に含まれる市区町村を固定させ集計している。

一つの市区町村が 2 以上の距離帯又は方位にわたる場合には、原則的に該当面積の多いほうで固定しているが、集計において各距離帯・方位別の市区町村数に可能な限り偏りが生じないように配慮している。

集計の対象となった市区町村数は、名古屋大都市圏 5 県 225 市区町村、東京大都市圏 8 都県 284 市区町村、大阪大都市圏 7 府県 230 市区町村である。なお名古屋・大阪両大都市圏双方に滋賀県水口町が含まれており、3 大都市圏合計の集計に当たっては数値を調整している。

なお掲載した統計表中の「-」は、当該地域区分において該当する市区町村が存在しない場合を示す。また、増加率、構成比等の計算値は表章単位未満を四捨五入している。

I-1 国土の 1 割である 3 大都市圏に全国の半数の人口が集中

平成 12 年 10 月 1 日現在における 3 大都市圏の人口は 63,377,994 人となっており、全国の人口 126,919,288 人の 49.9% を占めている。国土地理院「平成 12 年全国都道府県市区町村別面積調」によれば平成 12 年 10 月 1 日現在の全国の面積は 377,873.06km² で、そのうち 3 大都市圏の面積の合計は 40,201.86km² となっており、国土の 10.6% の地域に全人口の約半数が集中していることになる。

この 50 年間の人口の推移をみてみると、昭和 25 年には 3 大都市圏が 28,250,223 人、3 大都市圏外が 55,864,351 人で、3 大都市圏外人口が 3 大都市圏人口の約 2 倍の規模となっていた。これを全国人口に占める割合でみると、3 大都市圏が 3 分の 1（33.6%）、3 大都市圏外が 3 分の 2（66.4%）であった。これが平成 12 年には、3 大都市圏 63,377,994 人（全国に占める割合 49.9%）、3 大都市圏外 63,541,294 人（同 50.1%）と、両地域が拮抗する結果になっており、戦後一貫した地方圏から大都市圏への人口の流入が、我が国の人口分布の偏在化をもたらしている状況をうかがうことができる。

〔図 1-1、附表 1-2〕

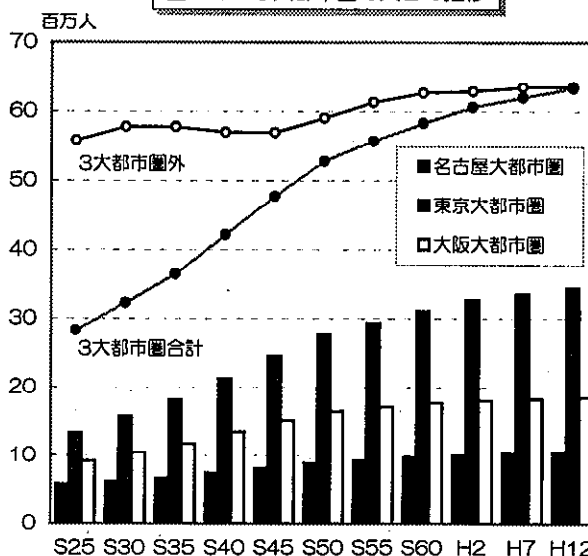
この間の我が国の人口は、84,114,574 人から平

成 12 年には約 4,280 万人増えて 126,919,288 人と 1.5 倍となっているが、うち 3 大都市圏の人口は約 3,513 万人増加し 2.2 倍に拡大しているのに対し、3 大都市圏外の人口は約 768 万人の増加で 1.1 倍の伸びに留まっており、この 50 年間の全国人口増加数の約 8 割（82.1%）が 3 大都市圏での増加となっている。

〔附表 1-1、附表 1-2、附表 1-3、

附表 1-4、図 1-2〕

図 1-1 3 大都市圏の人口の推移

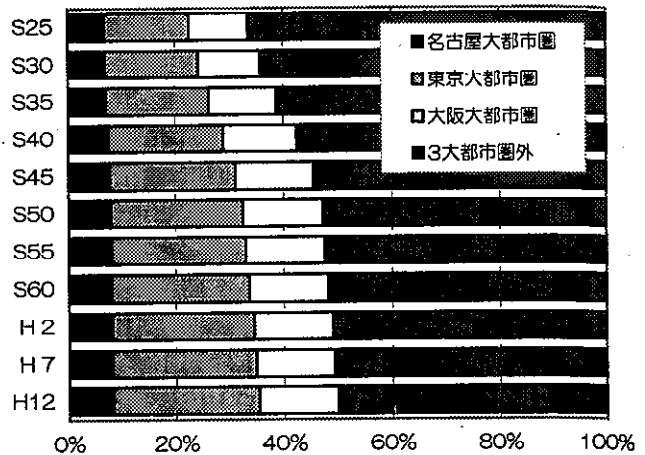


3大都市圏の人口は、第1次石油危機後の昭和50年以降の伸びは小さくなっているものの戦後復興期から高度経済成長期、さらにその後の安定成長期を通じて一貫して増加傾向にある。これに対し3大都市圏外の人口は戦後復興期、高度成長期まではほとんど横ばいであり、その後若干上向いたものの緩やかな増加に留まっている。昭和25年から昭和50年までの25年間は、経済の高度成長による都市部を中心とした労働力需要の急速な拡大に伴い、大量の若年労働力人口が3大都市圏へ流入した結果、3大都市圏の人口は約2,459万人(87.0%)の顕著な増加を示している。この間全国の人口増加数は約2,782.5万人であり、3大都市圏全体でそのうちの88.4%を占めている。

昭和50年以降、経済が安定成長期に入るとともに大都市圏への人口流入が収束し、バブル期を経て経済が低成長期にある現在では、出生率の低下ともあいまって、3大都市圏の人口増加は縮小傾向にある。しかし我が国全体の人口増加の規模からみると、この25年間では3大都市圏の増加数は約1,054万人と全国の7割(70.4%)の高水準を維持している。

[附表1-3、附表1-4]

図1-2 3大都市圏の人口構成比の推移



附表1-1 3大都市圏の人口指数の推移

年別	全国	3大都市圏	名古屋大都市圏	東京大都市圏	大阪大都市圏	3大都市圏外
S25	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
S30	107.1	114.2	107.3	117.9	113.2	103.5
S35	112.1	129.1	116.1	136.2	127.1	103.5
S40	117.9	149.2	128.4	160.1	146.4	102.1
S45	124.4	168.8	140.8	184.0	164.2	102.0
S50	133.1	187.0	153.5	206.9	179.1	105.8
S55	139.2	197.4	161.3	220.5	186.3	109.7
S60	143.9	206.6	167.6	233.2	192.2	112.2
H2	147.0	214.8	173.4	245.5	198.2	112.6
H7	149.3	219.6	178.0	252.0	198.5	113.7
H12	150.9	224.3	181.8	258.7	201.1	113.7

注) 昭和25年の人口を100.0として各年の人口を指数化した。

附表1-2 3大都市圏の人口とその構成比の推移

年別	全国	3大都市圏	名古屋大都市圏	東京大都市圏	大阪大都市圏	3大都市圏外	人口構成比(%)					
							全国	3大都市圏	名古屋大都市圏	東京大都市圏	大阪大都市圏	3大都市圏外
S25	84,114,574	28,250,223	5,761,918	13,311,923	9,199,541	55,864,351	100.0	33.6	6.9	15.8	10.9	66.4
S30	90,076,594	32,267,916	6,184,154	15,694,073	10,412,806	57,808,678	100.0	35.8	6.9	17.4	11.6	64.2
S35	94,301,623	36,478,908	6,687,229	18,124,267	11,690,249	57,822,715	100.0	38.7	7.1	19.2	12.4	61.3
S40	99,209,137	42,161,919	7,400,655	21,316,864	13,467,636	57,047,218	100.0	42.5	7.5	21.5	13.6	57.5
S45	104,665,171	47,690,567	8,111,009	24,497,161	15,106,448	56,974,604	100.0	45.6	7.7	23.4	14.4	54.4
S50	111,939,643	52,837,373	8,845,296	27,540,720	16,477,210	59,102,270	100.0	47.2	7.9	24.6	14.7	52.8
S55	117,060,396	55,754,695	9,296,451	29,351,112	17,134,803	61,305,701	100.0	47.6	7.9	25.1	14.6	52.4
S60	121,048,923	58,355,767	9,657,305	31,045,093	17,682,195	62,693,156	100.0	48.2	8.0	25.6	14.6	51.8
H2	123,611,167	60,684,354	9,988,824	32,678,637	18,049,576	62,926,813	100.0	49.1	8.1	26.4	14.6	50.9
H7	125,570,246	62,033,667	10,255,728	33,551,127	18,261,994	63,536,579	100.0	49.4	8.2	26.7	14.5	50.6
H12	126,919,288	63,377,994	10,474,141	34,440,130	18,500,766	63,541,294	100.0	49.9	8.3	27.1	14.6	50.1

附表1-3 3大都市圏の人口増加数、人口増加率の推移

年別	全国	3大都市圏	名古屋大都市圏	東京大都市圏	大阪大都市圏	3大都市圏外	人口増加率(%)					
							全国	3大都市圏	名古屋大都市圏	東京大都市圏	大阪大都市圏	3大都市圏外
S25-S30	5,962,020	4,017,693	422,236	2,382,150	1,213,265	1,944,327	7.1	14.2	7.3	17.9	13.2	3.5
S30-S35	4,225,029	4,210,992	503,075	2,430,194	1,277,443	14,037	4.7	13.1	8.1	15.5	12.3	0.0
S35-S40	4,907,514	5,683,011	713,426	3,192,597	1,777,387	-775,497	5.2	15.6	10.7	17.6	15.2	-1.3
S40-S45	5,456,034	5,528,648	710,354	3,180,297	1,638,812	-72,614	5.5	13.1	9.6	14.9	12.2	-0.1
S45-S50	7,274,472	5,146,806	734,287	3,043,559	1,370,762	2,127,666	7.0	10.8	9.1	12.4	9.1	3.7
S50-S55	5,120,753	2,917,322	451,155	1,810,392	657,393	2,203,431	4.6	5.5	5.1	6.6	4.0	3.7
S55-S60	3,988,527	2,601,072	360,854	1,693,981	547,592	1,387,455	3.4	4.7	3.9	5.8	3.2	2.3
S60-H2	2,562,244	2,328,587	331,519	1,631,544	367,381	233,657	2.1	4.0	3.4	5.3	2.1	0.4
H2-H7	1,959,079	1,349,313	266,904	874,490	212,418	609,766	1.6	2.2	2.7	2.7	1.2	1.0
H7-H12	1,349,042	1,344,327	218,413	889,003	238,772	4,715	1.1	2.2	2.1	2.6	1.3	0.0
S25-S50	27,825,069	24,587,150	3,083,378	14,228,797	7,277,669	3,237,919	33.1	87.0	53.5	106.9	79.1	5.8
S50-H12	14,979,645	10,540,621	1,628,845	6,899,410	2,023,556	4,439,024	13.4	19.9	18.4	25.1	12.3	7.5
S25-H12	42,804,714	35,127,771	4,712,223	21,128,207	9,301,225	7,676,943	50.9	124.3	81.8	158.7	101.1	13.7

I-2 東京大都市圏を中心に、大都市圏に再び人口流入の兆し

平成 12 年 10 月 1 日現在の名古屋大都市圏の人口は 10,474,141 人で、全国の人口の 8.3%を占めている。また東京大都市圏は 34,440,130 人、大阪大都市圏は 18,500,766 人で、全国に占める割合はそれぞれ 27.1%、14.6%となっている。

昭和 25 年からの 50 年間の大都市圏ごとの人口をみると、名古屋大都市圏が約 1.8 倍、東京大都市圏が約 2.6 倍、大阪大都市圏が約 2.0 倍に拡大しており、とりわけこの間の東京大都市圏の人口の伸びは著しく、昭和 25 年の約 1,331 万人から 50 年間で約 2,113 万人の増加を示しており、これは全国の増加数約 4,280 万人のほぼ半分 (49.4%) となっている。

[附表 1-1、附表 1-2、附表 1-3、附表 1-4]

各大都市圏について、この 50 年間の人口増加率を 5 年ごとにみてもみると、すべての期間を通じて名古屋、

東京両大都市圏の人口増加率が全国の人口増加率を上回っている状況がみられ、とりわけ東京大都市圏の人口増加率は他の大都市圏に比べ常に高い数値を示している。昭和 50 年までは、各大都市圏ともに全国との人口増加率の差は顕著であり、最も格差の大きい昭和 35 年～昭和 40 年を中心に大量の人口が 3 大都市圏に流入したことがうかがえる。

しかし、第 1 次石油危機を境として昭和 50 年以降各大都市圏と全国との人口増加率は接近するようになり、特に大阪大都市圏の人口増加率は、名古屋大都市圏の数値と逆転したばかりでなく、全国平均をも下回っている。

昭和 60 年～平成 2 年には名古屋、東京両大都市圏ともに人口増加率が全国平均に対し再度拡大に向かい、それぞれの大都市圏への人口再流入の兆しが見受けられたが、平成 2 年～7 年のバブル経済崩壊後には、各大都市圏ともに人口増加率が大きく低下し、特に東京大都市圏は 5.3%から 2.7%へと急速な後退を示し、東京一極集中に緩和の兆しがみられるようになった。

しかし平成 7 年～12 年には、全国の人口増加率が 1.1%にまで縮小するなかで、名古屋、東京両大都市圏の人口増加率はそれぞれ 2.1%、2.6%と 5 年前より数値は低下したものの堅調に推移し、また大阪大都市圏は 5 年前の 1.2%から 1.3%へと拡大に転じるなど、3 大都市圏へ再び人口流入の動きがみられるようになっている。

[図 1-3、附表 1-3]

附表 1-4 3 大都市圏の人口増加数構成比の推移 (%)

年 別	全 国	3 大 都 市 圏	名 古 屋 大 都 市 圏	東 京 大 都 市 圏	大 阪 大 都 市 圏	3 大 都 市 圏 外
S45-S50	100.0	70.8	10.1	41.8	18.8	29.2
S50-S55	100.0	57.0	8.8	35.4	12.8	43.0
S55-S60	100.0	65.2	9.0	42.5	13.7	34.8
S60-H 2	100.0	90.9	12.9	63.7	14.3	9.1
H 2-H 7	100.0	88.9	13.6	44.6	10.8	31.1
H 7-H 12	100.0	99.7	16.2	65.9	17.7	0.3
S25-S50	100.0	88.4	11.1	51.1	26.2	11.6
S50-H 12	100.0	70.4	10.9	46.1	13.5	29.6
S25-H 12	100.0	82.1	11.0	49.4	21.7	17.9

図 1-3 3 大都市圏の人口増加率の推移

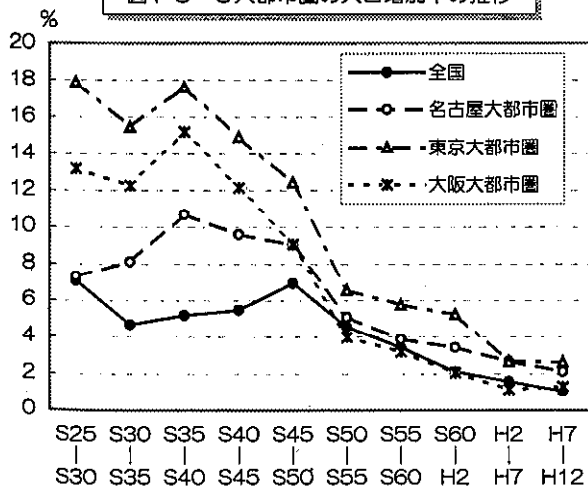
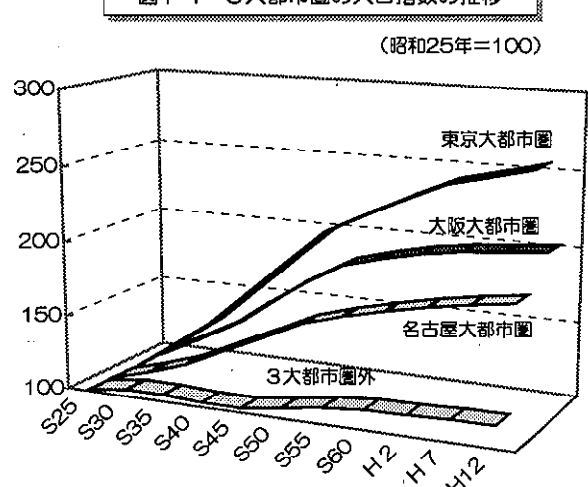


図 1-4 3 大都市圏の人口指数の推移



II-1 東京大都市圏の0~10km圏人口が35年ぶりに前回比で増加

各大都市圏におけるこの50年間の人口増加数の推移を距離帯別にみると、昭和40年までは40km以遠の一部で人口減がみられるものの、各大都市圏とも堅調に人口が増加しており、特に東京大都市圏の10~20km圏では5年ごとに100万人規模の増加数がみられる。昭和35年~40年は高度成長がほぼピークとなり、大都市圏への人口流入が最大級となった時期で、5年間の増加総数は東京大都市圏が約319万人、大阪大都市圏が約178万人、名古屋大都市圏が約71万人を示しており、その比はほぼ4対2対1とその中でも東京大都市圏への人口集中の様相がうかがえる。しかしこの時期の0~10km圏だけをみると、その人口増加数は各大都市圏とも5年前より規模の縮小がみられ、特に東京大都市圏は約80万人増から約29万人増へと3分の1強へ縮小しており、その後の人口ドーナツ化現象の進展の兆しが見受けられる。

その後第1次石油危機を経て経済が安定成長期に入ると、各大都市圏の人口増加数は大きく下降して行き、特に昭和50年~55年の増加総数は東京大都市圏が約181万人、大阪大都市圏が約66万人、名古屋大都市圏が約45万人となり、昭和45年~50年のそれぞれ約304万人増、約137万人増、約73万人増から激減を示している。

またこの時期は、0~10km圏の都心地域に人口減少がみられるようになり、同時に最大の人口増加を示す圏域が中心から外延へシフトしていくというドーナツ化現象が顕著に進展している。この0~10km圏における人口減少は、東京大都市圏では昭和45年以降平成2年まで、大阪大都市圏では昭和50年以降平成12年まで続いており、また名古屋大都市圏においては0~10km圏で他の大都市圏ほど顕著なマイナスはみられないものの、0~5km圏だけをみると昭和45年以降平成12年まで人口減少が継続している。

昭和60年以降はバブル経済とその崩壊を経て平成7年まで、各大都市圏の人口増加数はさらに低下を示しており、東京大都市圏の増加総数は昭和55年~60年の約169万人が、平成2年~7年には約87万人へとほぼ半減している。また大阪大都市圏の増加総数は同じく約55万人から約21万人へとほぼ4割の規模にまで低下している。一方、名古屋大都市圏につい

ては約36万人増から約27万人増へと比較的小規模な縮小に留まり、初めて大阪大都市圏の増加総数を上回っている。

大阪大都市圏はこの時期特に都心部において著しい人口吸引力の後退がみられ、平成2年~7年には0~10km圏と合わせ10~20km圏においても人口減を示している。

平成7年以降は今回の平成12年国勢調査までの間バブル経済崩壊による地価下落が全国的に浸透していくなかで、大都市圏についてもその中心部と周辺地域との地価格差の平準化が進み、より利便性の高い大都市圏中心部への人口回帰が顕在化するようになってきている。特に東京大都市圏の0~10km圏はこれまで30年間人口減少となっていたのが、今回約11万人の大幅な増加に転じており、名古屋大都市圏でも0~10km圏が10年ぶりにプラスとなっている。また大阪大都市圏は、0~10km圏の減少幅は横ばいだが、0~5km圏だけをみると約2万人の増加となり、10~20km圏についても約5万人の大幅なプラスに転換している。 [図2-2、第2表]

各大都市圏の距離帯別人口密度をみると、この50年間で人口規模の変動こそあるものの、依然として都心部への人口の集積は顕著であり、0~10km圏は平成12年において名古屋大都市圏6,206.9人/km²、東京大都市圏14,179.3人/km²、大阪大都市圏10,805.0人/km²と、とりわけ東京大都市圏中心部の過密さがうかがえる。 [図2-1、第5表]

図2-1 3大都市圏の距離帯別人口密度 (平成12年)

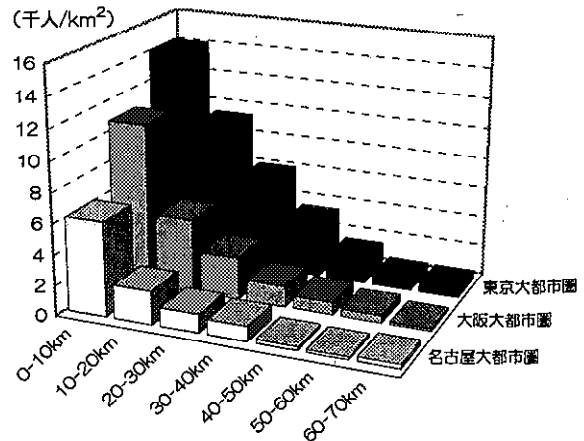
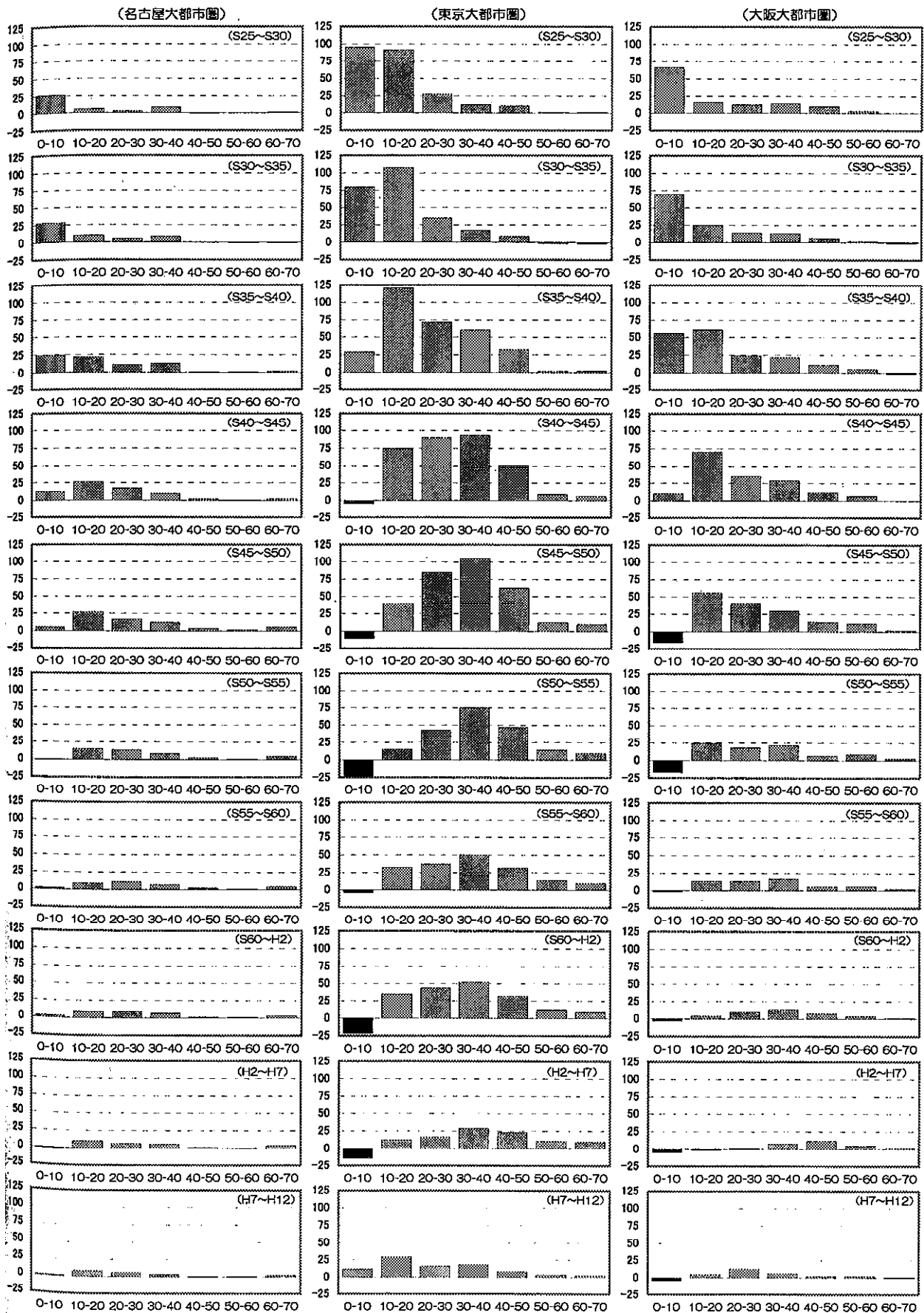


図2-2 3大都市圏の距離帯別人口増加数の推移

(単位 縦軸：万人，横軸：km)



II-2 昭和 55 年以降、30km 圏内の人口増加率は名古屋大都市圏が大阪大都市圏を凌駕

各大都市圏の距離帯別人口増加率の推移をみると、昭和 25 年～30 年においては各大都市圏とも中心に近い距離帯で 20%以上の著しい増加率がみられるが、東京大都市圏はこの後、都心部の人口空洞化と周辺地域の人口過密化が顕著に進み、昭和 35 年～40 年には 0～10km 圏が 5.6%にまで低下するとともに 30～40km 圏が 40.5%に上昇し、昭和 40 年～45 年には 0～10km 圏が -0.9%とマイナスに転じる一方で 30～40km 圏が 44.3%とピークを示し、40～50km 圏も 22.1%の大幅な増加となっている。さらに昭和 50 年～55 年には 50～60km 圏が 11.3%増にまで上昇しているが、同時に他の距離帯で 20%以上を示す地域がなくなり、この時期以降それまでの東京大都市圏への極端な人口集積は収斂していくことになる。

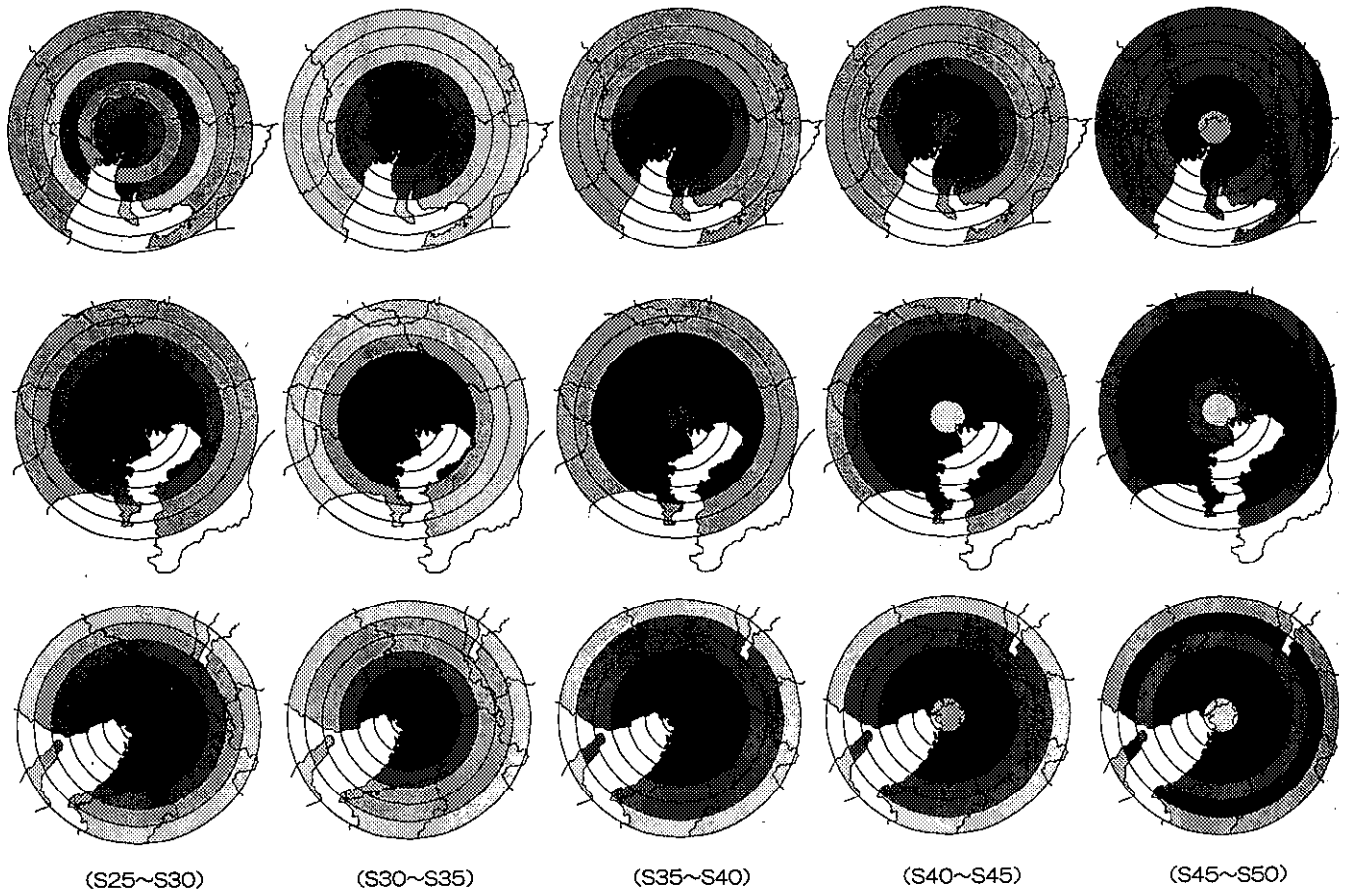
こうした人口増加率の上昇から下降への局面は、数値の大きさに差はあるものの他の大都市圏でもほぼ同時期に同様の動向をみることができる。名古屋大都

市圏については昭和 35 年～40 年に 10～20km 圏が 24.3%のピークを示していたのが、昭和 50 年～55 年には 9.3%にまで低下しており、0～10 km 圏では 13.8%から -0.3%へと減少に転じている。この時期は 20～30km 圏の増加率が 11.1%を示しているが、名古屋大都市圏は東京大都市圏ほどの外延部への人口の広がりは見受けられない。

大阪大都市圏については昭和 35 年～40 年に 10～20km 圏が 39.8%のピークを示していたのが、昭和 50 年～55 年には 7.2%にまで低下している。名古屋、大阪両大都市圏における人口増加率は、昭和 45 年～50 年に両者 9.1%で拮抗していたが、この時期を転換点として、その後中心圏域で大阪大都市圏の数値が名古屋大都市圏を下回るようになり、特に 0～30km 圏内は昭和 55 年以降ほとんどすべての距離帯で名古屋大都市圏が大阪大都市圏を上回る増加率を示している。 [図 2-3、第 2 表]

図2-3 3大都市圏の距離帯別人口増加率の推移

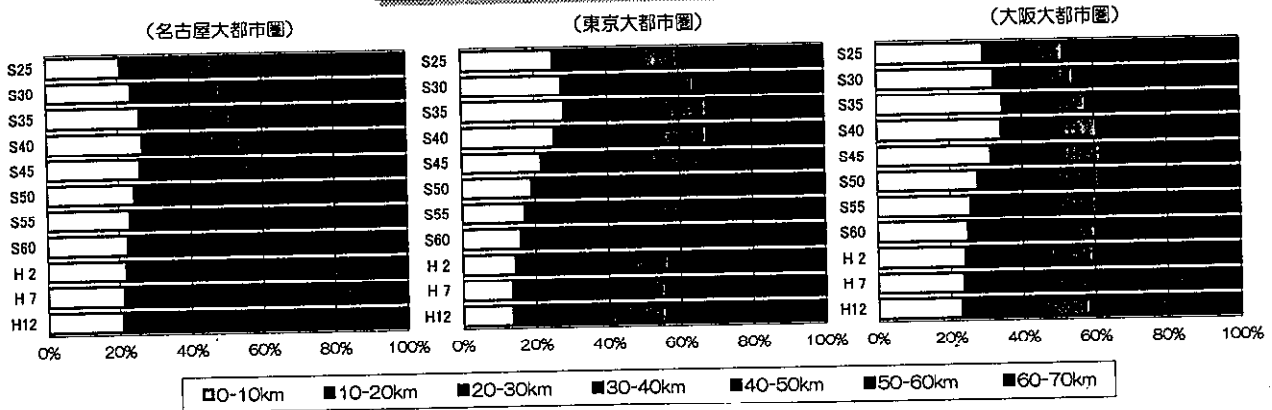
(上段：名古屋大都市圏 中段：東京大都市圏 下段：大阪大都市圏)



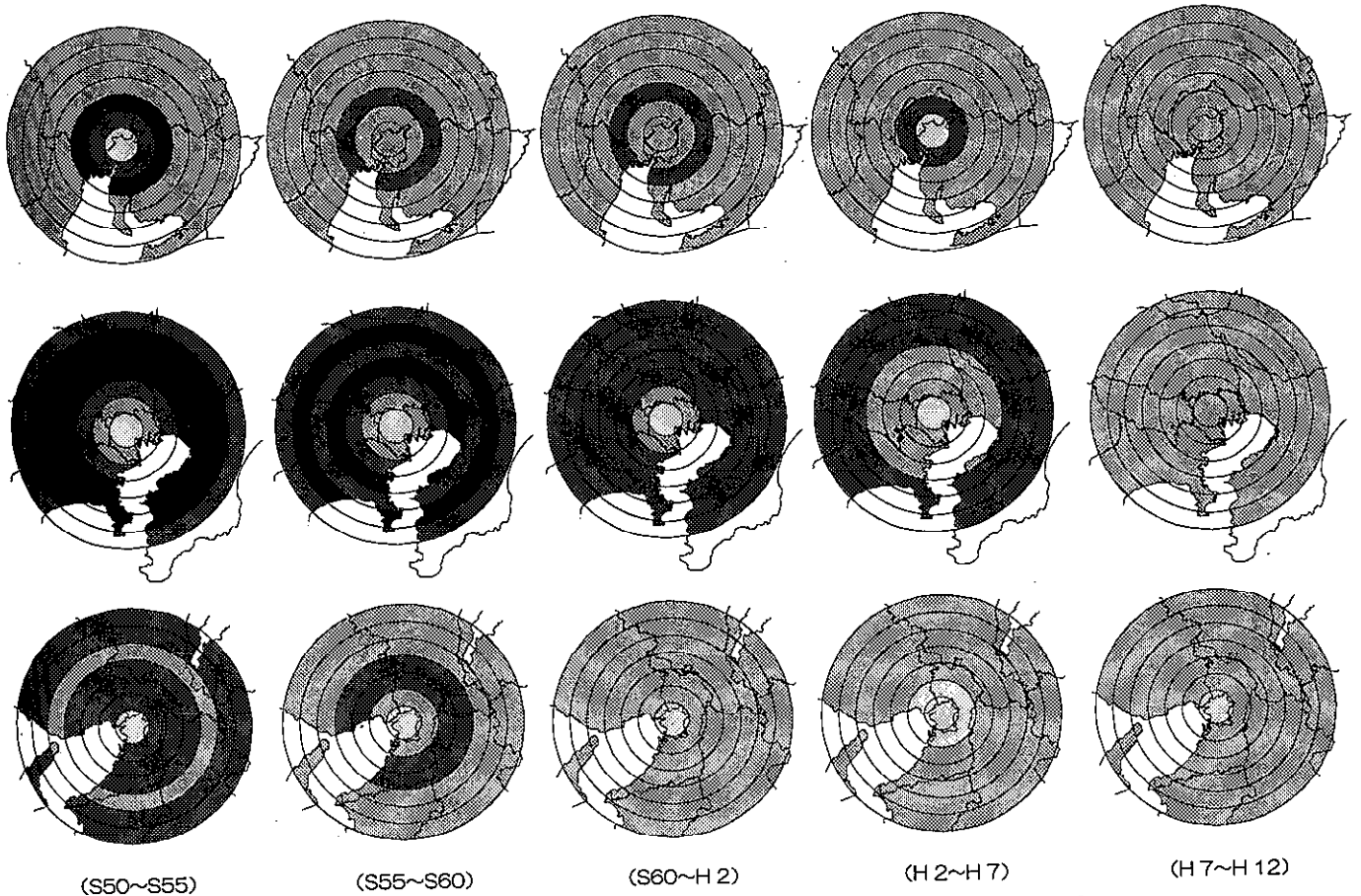
この人口増加率縮小の傾向は平成7年まで続くが、平成12年になると、特に大都市圏の中心部で人口減から人口増への反転がみられるようになり、東京大都市圏における0~5km圏では平成2年~7年の-5.9%から平成7年~12年の2.1%へ、また大阪大都市圏の同地域でも-0.7%から2.5%へと増加に転じている。名古屋大都市圏の同地域ではプラスとなっていないものの、-2.4%から-0.8%へと大きな改善を示している。 [図2-3、第2表]

各大都市圏の人口構成比を距離帯別にみると、名古屋大都市圏は他の大都市圏と異なり、0~40km圏と60~70km圏の双方に2桁の割合がみられる。人口密度の状況からみても60~70km圏は名古屋大都市圏中心部の都市機能の影響が及んでいるものとは必ずしも考えられず、人口分布の側面からみる名古屋大都市圏は、他の大都市圏に比べ都市圏としての地域がより狭隘であり、その圏域は概ね40kmまでと考えることができる。 [図2-1、図2-4、第1表]

図2-4 3大都市圏の距離帯別人口構成比の推移



【凡例】 0%未満 0%以上5%未満 5%以上10%未満 10%以上20%未満 20%以上



Ⅱ-3 阪神・淡路大震災被災地域で人口の回復が進展

各大都市圏の距離帯を8方位別に区分したセクタごとの人口増加率の変化をみると、名古屋大都市圏では長期的にJR東海道線や中央線、関西線など鉄道沿線のセクタを中心に安定した人口集積がみられる。また、中心部を取り巻く10~30km圏のセクタをみると、昭和50年まででは北東部、東部、東南部を中心に大きな伸びがみられる一方、30km以遠では東部を中心に多くのセクタで人口減少となっている。10~30km圏はその後も比較的堅調な増加を示しているが、平成12年になると東南部を除くほとんどのセクタで、5年前に比べて増加率に低下がみられるようになっていく。

東京大都市圏についてみると、昭和35年~50年にかけて0~40km圏までの多くのセクタで、5年間ごとの増加率が20%を超える顕著な伸びを示しており、特に南部、南西部の10~40km圏でかなりの高率となっている。昭和50年~55年になると人口増の中心

が北東部の30~60km圏に移り、以後増加率全体が低下していきなかつ、北東部及び西北部から南西部にかけての20~50km圏で安定した増加がみられる。平成に入って都心部の人口空洞化が進むなか、0~10km圏は平成2年~7年で西北部を除く7つのセクタすべてで減少を示したが、平成7年~12年には全域が人口増加に転じており、また10~20km圏も全域で増加幅の拡大、減少幅の縮小がみられ、東京大都市圏中心部全域にわたっての人口の回復基調がうかがえる。

大阪大都市圏についてみると、10~40km圏の鉄道沿線セクタを中心とした人口の集積がみられる。このうち西部地域は平成2年~7年に阪神・淡路大震災の影響で著しい減少を示していたが、平成12年には反転して増加となっており、この5年間での被災地域の復興の様子が裏付けられる。

[図2-5、図2-6、第4表]

図2-5 3大都市圏のセクタ別人口増加率の推移

(上段：名古屋大都市圏 中段：東京大都市圏 下段：大阪大都市圏)

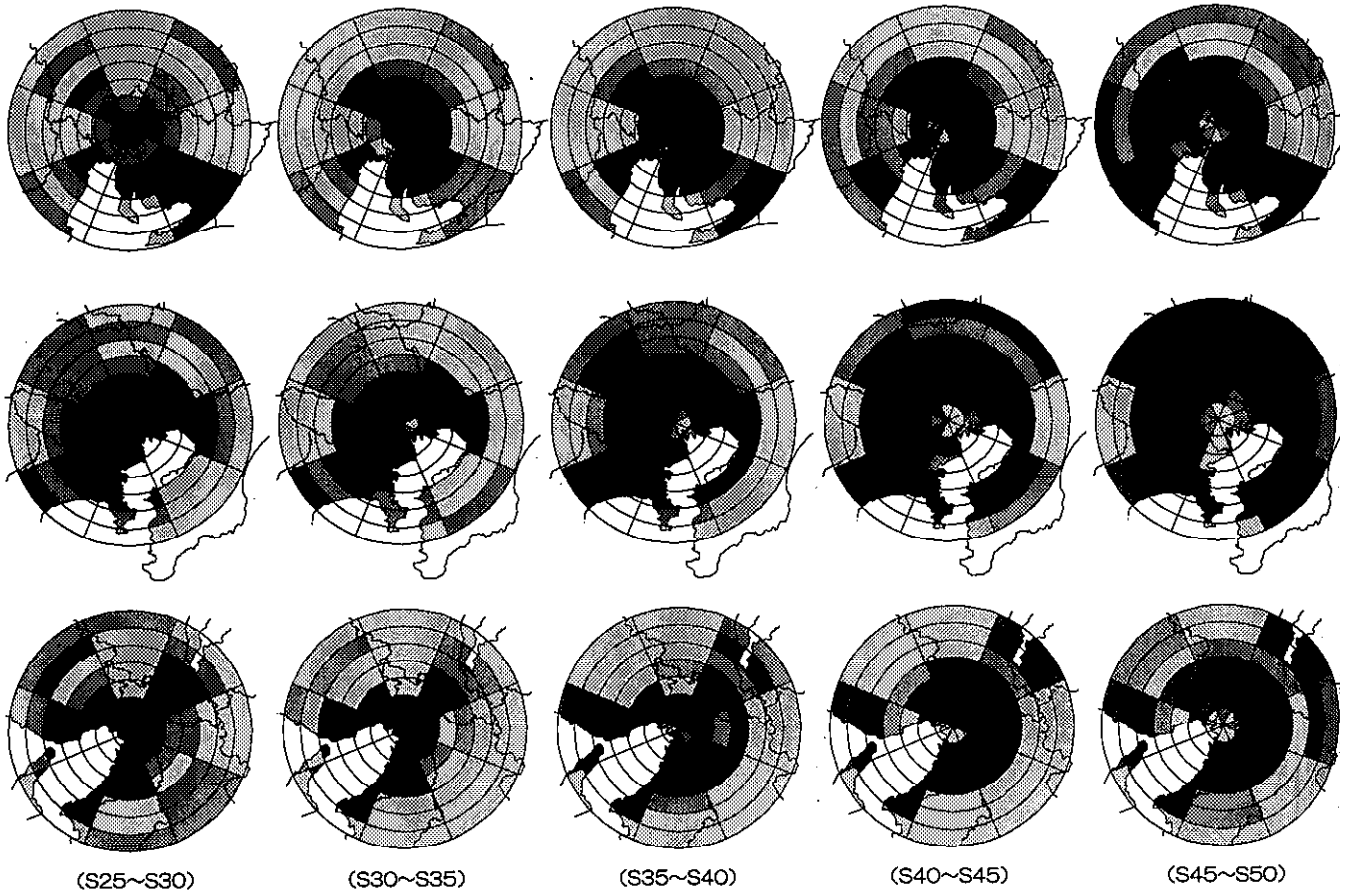
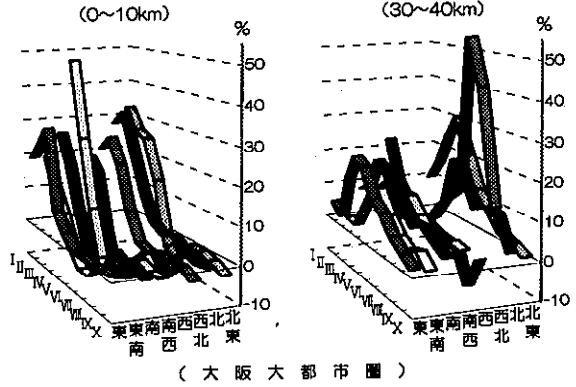
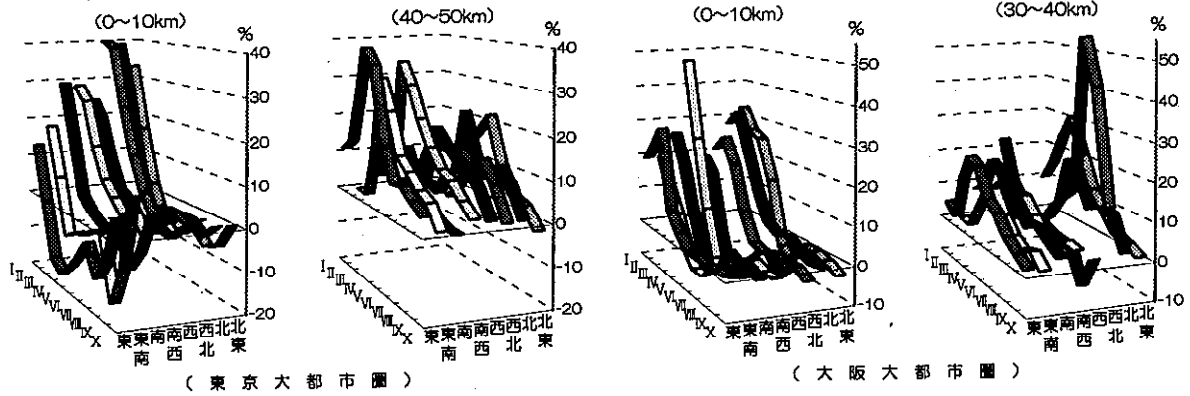
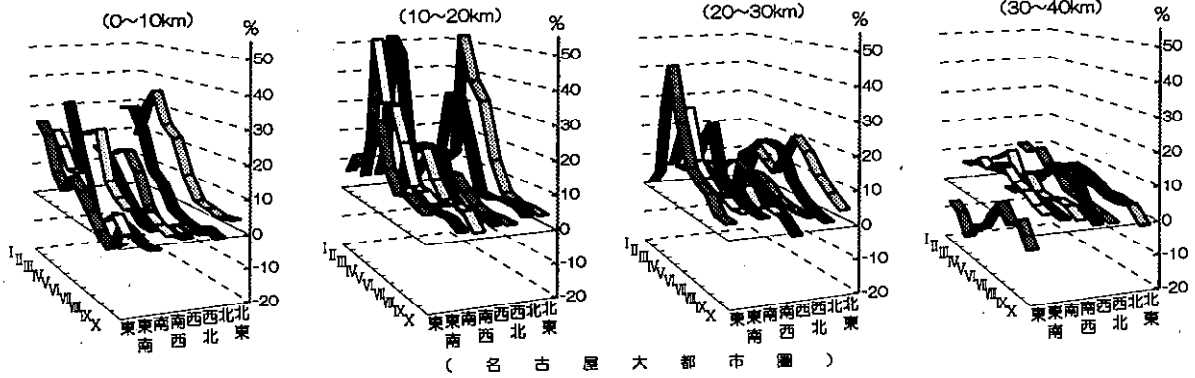
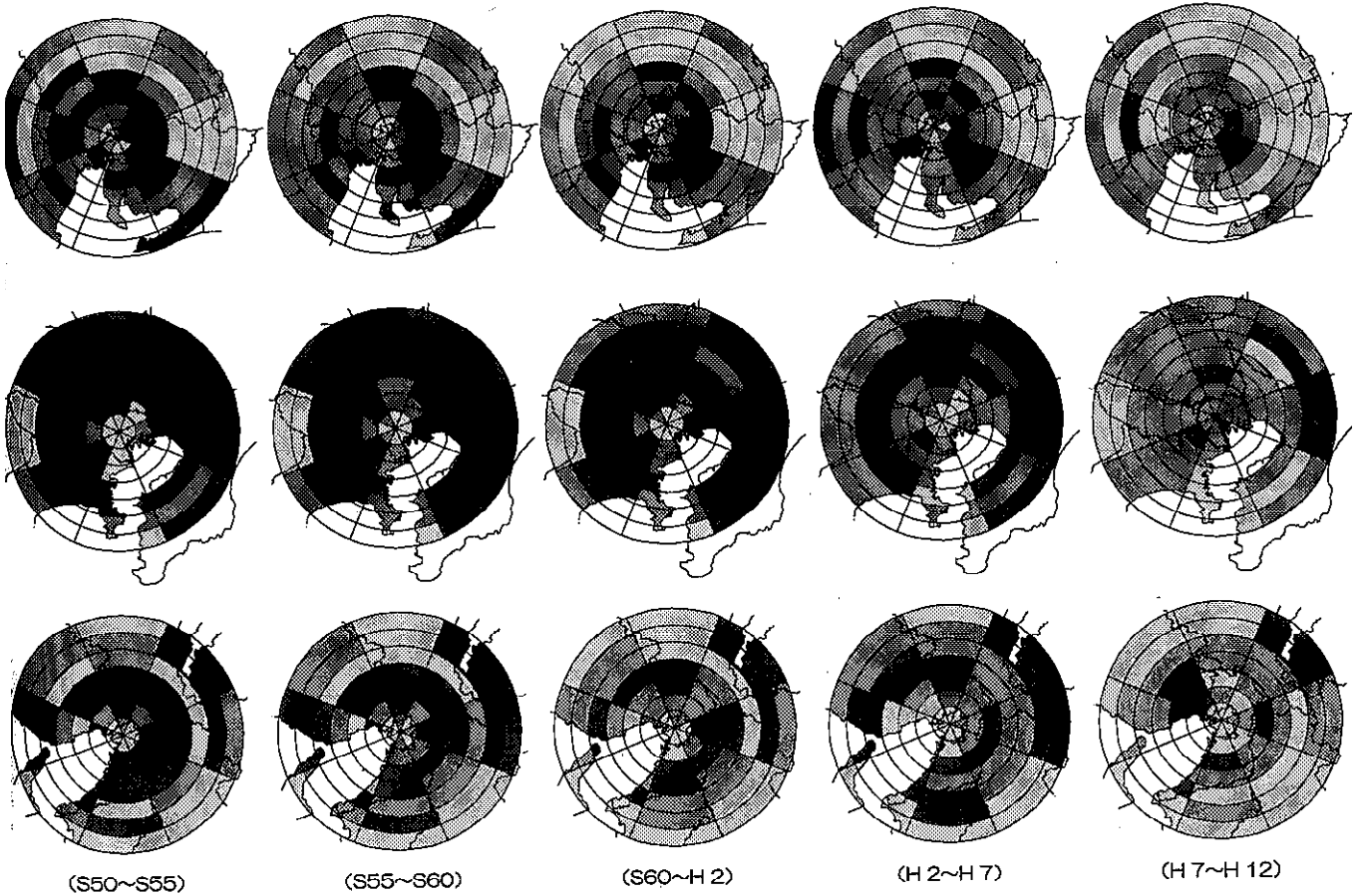


図2-6 3大都市圏のセクタ別人口増加率の推移

I : S25-30 II : S30-35 III : S35-40 IV : S40-45 V : S45-50
 VI : S50-55 VII : S55-60 VIII : S60-H2 IX : H2-7 X : H7-12



【凡例】 □ 0%未満 ▨ 0%以上 5%未満 ▩ 5%以上 10%未満 ■ 10%以上 20%未満 ● 20%以上



第3表 距離帯別・方位別人口の推移（大阪大都市圏）

距離帯 (km)	総数	東	東南	南	南西	西	西北	北	北東
S55 総数	17,134,603	1,704,846	1,933,211	2,299,809	1,259,926	2,361,008	1,993,719	1,489,245	4,092,839
0~10	4,401,094	767,390	738,168	600,476	307,538	150,792	677,919	656,513	502,298
10~20	3,663,998	237,678	544,252	975,270	66,815	81,745	689,678	670,592	397,968
20~30	2,340,847	112,649	268,383	286,378	67,474	440,926	313,462	12,471	839,104
30~40	2,701,734	381,229	252,498	258,889	204,797	626,764	48,055	79,434	850,068
40~50	2,318,852	33,079	104,824	124,221	120,061	633,852	56,973	25,650	1,220,192
50~60	1,213,306	121,823	17,728	29,237	423,666	330,887	100,882	28,275	160,808
60~70	494,772	50,998	7,358	25,338	69,575	96,042	106,750	16,310	122,401
(再掲)0~5	855,373	157,145	208,506	50,104	53,695	60,101	154,269	87,969	83,584
5~10	3,545,721	610,245	529,662	550,372	253,843	90,691	523,650	568,544	418,714
0~50	15,426,525	1,532,025	1,908,125	2,245,234	766,685	1,934,079	1,786,087	1,444,660	3,809,630
S60 総数	17,682,195	1,792,102	1,962,361	2,361,046	1,277,362	2,448,847	2,029,490	1,561,302	4,249,686
0~10	4,381,372	769,607	709,820	604,043	301,507	149,908	669,096	675,329	502,062
10~20	3,797,814	259,086	566,681	989,319	66,974	87,127	705,681	714,181	408,765
20~30	2,471,775	122,227	295,348	307,729	67,755	437,642	330,649	16,297	894,128
30~40	2,869,291	420,084	262,359	277,044	211,919	638,206	55,146	86,596	917,937
40~50	2,374,830	33,300	105,735	127,473	137,765	681,350	56,670	25,595	1,206,942
50~60	1,271,802	134,218	16,206	31,393	423,678	352,808	103,369	27,709	182,421
60~70	515,311	53,580	6,212	24,044	67,764	101,806	108,879	15,595	137,431
(再掲)0~5	867,613	157,466	202,228	49,074	58,157	57,497	159,981	91,285	91,925
5~10	3,513,759	612,141	507,592	554,969	243,350	92,411	509,115	584,044	410,137
0~50	15,895,082	1,604,304	1,939,943	2,305,608	785,920	1,994,233	1,817,242	1,517,998	3,929,834
H2 総数	18,049,576	1,857,160	1,989,934	2,390,990	1,276,414	2,541,729	2,075,853	1,586,560	4,330,936
0~10	4,350,625	767,560	692,865	598,877	300,186	151,299	659,659	678,099	502,080
10~20	3,836,054	276,099	578,577	980,818	65,086	87,524	717,261	721,404	409,285
20~30	2,577,612	133,731	323,950	328,459	67,035	436,211	343,115	23,676	921,435
30~40	3,002,890	444,433	267,804	297,330	213,545	647,365	86,118	96,133	950,162
40~50	2,447,100	32,751	105,939	130,760	146,984	748,991	57,117	25,352	1,199,206
50~60	1,308,737	146,402	15,187	32,321	418,113	367,060	104,172	27,105	198,377
60~70	526,558	56,184	5,612	22,425	65,465	103,279	108,411	14,791	150,391
(再掲)0~5	857,623	155,225	194,063	48,480	59,288	56,252	160,660	87,447	96,208
5~10	3,493,002	612,335	498,802	550,397	240,898	95,047	498,999	590,652	405,872
0~50	16,214,281	1,654,574	1,969,135	2,336,244	792,836	2,071,390	1,863,270	1,544,664	3,982,168
H7 総数	18,261,727	1,917,543	2,016,047	2,429,421	1,290,521	2,518,928	2,078,647	1,600,108	4,410,512
0~10	4,304,863	770,659	678,457	595,110	295,114	146,282	650,595	670,330	498,316
10~20	3,819,538	289,331	586,223	974,813	64,290	75,027	683,116	728,571	418,167
20~30	2,584,128	144,403	347,245	353,736	68,839	358,779	347,086	26,617	937,423
30~40	3,079,828	459,298	277,127	311,902	224,383	602,630	123,408	106,277	974,803
40~50	2,564,346	33,217	107,655	138,139	158,859	836,120	60,161	26,156	1,204,039
50~60	1,360,782	158,739	14,210	34,429	414,761	392,909	105,526	27,762	212,446
60~70	548,242	61,896	5,130	21,292	64,275	107,181	108,755	14,395	165,318
(再掲)0~5	851,176	155,596	187,168	49,067	58,686	55,103	162,021	85,488	98,047
5~10	3,453,687	615,063	491,289	546,043	236,428	91,179	488,574	584,842	400,269
0~50	16,352,703	1,696,908	1,996,707	2,373,700	811,485	2,018,838	1,864,366	1,557,951	4,032,748
H12 総数	18,500,766	1,945,642	2,018,414	2,436,815	1,301,474	2,607,907	2,145,629	1,602,203	4,442,682
0~10	4,259,238	774,957	676,732	587,427	290,725	148,140	629,524	667,576	484,157
10~20	3,867,943	296,931	584,526	962,208	62,266	83,838	731,882	733,487	412,805
20~30	2,712,472	154,251	357,596	374,030	75,090	419,842	366,795	25,723	939,145
30~40	3,140,857	464,015	277,852	321,127	234,290	611,620	140,826	108,737	982,390
40~50	2,586,102	31,331	104,120	137,817	170,506	838,773	63,081	26,167	1,214,307
50~60	1,383,867	161,933	12,927	34,474	406,290	400,442	105,127	26,830	236,844
60~70	550,287	62,224	4,661	19,732	62,307	105,252	108,394	13,683	174,034
(再掲)0~5	872,489	157,933	192,719	50,189	63,382	55,700	163,363	91,957	97,246
5~10	3,386,749	617,024	484,013	537,238	227,343	92,440	466,161	575,619	386,911
0~50	16,566,612	1,721,485	2,000,826	2,382,609	832,877	2,102,213	1,932,108	1,561,690	4,032,804

